

神戸元町から伊豆高原に引っ越して7年経ちました。
一年待ったクルマが納車され行動半径が広がります

伊豆高原(ゆうゆうの里)

河野幸夫様(77歳)・かなな様(77歳)

平成30年一月 二人入居

主人が50歳で独立し、それから70歳まで一緒に仕事をしてきました

幸夫様 私は大阪で、この人は岡山出身。学生時代に大阪で知り合いました。

かなな様 私の父は大酒飲みでしたが、主人はお酒が全く苦手。それを母が知るや喜んで、「お酒を飲まない河野さんはいいい人ね」と。結婚はこの一言が後押しになった

かも。

幸夫様 大学卒業と同時に神戸製鋼に入社してから28年勤務。カートル単身赴任、国内工場の勤務を経て、退職までの10年ほどは東京勤務の東京生活でした。前職の社会保険の専門性を生かして二人で会社を立ち上げました。

かなな様 私も東京で生活している時は、会計事務所に勤めていました。夫が独立した時に、有限会社をつくり私が社長となり、経理

も担当しました。

幸夫様 どれくらい先まで仕事をするかなと思いましたが、結果的に70歳までしました。今では会社は次男に譲っています。

きっかけは母の介護体験。主人の人生設計通りにホーム選びがスタート

幸夫様 人生設計のスケジュールを立てて、入居の2、3年前になる67、8歳から本格的にホー



ム選びを始めました。

かなな様 ただ、ホーム入居を考え出したきっかけはもっと以前に遡ります。母は102歳まで長生きして逝きましたが、認知症の



スポーツ吹矢を楽しむ かな様

期間が長かったのです。忙しい40代に私達は東京で暮らしていましたが、母がよく電話をしてきて、同じ話を何回もするんです。「その話は聞いたわよ」と電話を切っていたが、今ではもつと聞いてあげればよかったと思います。

幸夫様 いつそういうことが起こるかはわからない。どっちがなっても困らないようにしておく必要がある。そうなる選択は有料老人ホームだと考え、70歳の入居を目標にしました。



「俳句の会」で推敲を重ねる幸夫様

ツアーがありました。それは私が見た初めてのホームでした。でも後に、そこが経営不振で潰れたの。

幸夫様 「潰れた時はどうなるんだらうね」って話しました。決めるまで十数箇所は行っていますが、経営破綻のリスクがないホームを選ぼうと思いました。

改めて伊豆高原の魅力を発見

幸夫様 東京にいた頃、伊豆高原には何度も遊びに来ていたんです。その時は知りませんでした。神戸や京都の「ゆるゆるの里」を見学し、伊豆高原にもあることを知りました。

かな様 テラスの写真を見て、山が見える、海の近くだ。「素敵！」と、見学に行きました。

幸夫様 二人とも気候が気に入りました。伊豆高原は冬暖かく、夏は涼しい。

かな様 コテージ風の低層の建物も気に入りました。食事が美味しいのも評価ポイントが高かったです。

幸夫様 神戸で住んだ元町の高層マンションの最上階は、景色はいが窓ガラスの掃除が大変。ベランダで脚立に乗ってのガラス拭きには恐怖を感じます。いつまでこれをやるのかなーと。その時、待機登録をしていた「Dタイプ」が空きました」と連絡をもらいました。

かな様 神戸も京都も候補だったので、ここが最終地になるとは思っていませんでした。何か縁を感じます。

幸夫様 神戸の都会から引越して、ネオンサインが満天の星に代わりました。デパートもなくなりましたが、安全で楽、災害時の不安もなくなりました。

仕事をしている時より、友達が増えました（幸夫様）。忙しくて一週間はあつという間に過ぎます（かな様）

幸夫様 入居して俳句と囲碁をしています。おかげで友好関係が広がりました。囲碁は里のサークルと外でもやっています。「六十の

手習い」で始めましたが、神戸のカルチャーセンターで習い3、4年で初段に。こちらに来て更に進歩しましたね。今は5段です。俳句は「70歳からの手習い」という感じでしようか、ここに来てから始めました。一年間で何百句も詠んでいます。そのうち、毎月5、6句を投稿します。自分の句集を作りたいと原稿を書き留めています。仕事をしていた時は「友達が少ない河野さん」でしたが、友達もたくさん増えて満足しています。

かな様 私は、庭にお花を植えていましたが、猪にやられてから止めています。その代わり、コース、グラウンドゴルフ、スポーツ吹矢、写真、自主的にやっている「きくち体操」、麻雀と忙しいです。麻雀はここ最近始めたばかりですが、楽しさがわかってきました。役満を一週間で二回達成して、「役満の女王」と言われています（笑）。グラウンドゴルフは夫婦で参加。木曜日は主人が囲碁のため出かけるので一人の時間ができます。それも嬉しいです。

幸夫様 最近、一年待ったクルマが納車されました。クルマがあると自由に行動できるのも楽しみです。でも、血糖値を上げないため一日一万歩のウォーキングは継続しています。